

GPA制度を正しく活用して、
教育の質の向上を図ろう！

九州大学 教育改革企画支援室



九州大学



目次

1. GPA制度とは？
2. GPA制度を実施するうえでの留意点
3. 現行のGPA制度の問題・課題
4. 新GPA制度の運用
5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法
6. 本学でのGPAの活用例
7. 参考となる国内外の大学での活用例



はじめに

最近の諸情勢を考慮し、平成19年度入学生より導入されたGPA制度を、今回一部改定した。

新しいGPA制度の下、透明性のある成績評価を通じて、**学生の能動的学習**活動と教員のきめ細やかな**履修指導**を推進し、**教育の質の保証**を強化する。

1. GPA制度とは？



九州大学

目次

1. GPA制度とは？
2. GPA制度を実施するうえでの留意点
3. 現行のGPA制度の問題・課題
4. 新GPA制度の運用
5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法
6. 本学でのGPAの活用例
7. 参考となる国内外の大学での活用例

1. GPA (Grade Point Average) 制度とは？

従前のわが国の伝統的な成績評価法である100点法に基づく優・良・可・不可の4段階評価に代わり、**A・B・C・D・Fの5段階で4～0点のGPを付す。**

* ここでは新GPA制度の定義を記述

グレード(評価)	評価のレベル	
A : Excellent	基準を大きく超えて優秀である	4
B : Good	基準を超えて優秀である	3
C : Satisfactory	望ましい基準に達している	2
D : Pass	単位を認める最低限の基準には達している	1
F : Fail	基準を大きく下回る	0

授業科目ごとの学習目標の到達度をルーブリックに基づき評価する。



1. GPA (Grade Point Average) 制度とは？

各授業科目のグレードポイント(GP)と単位数を考慮し、1単位当たりの平均値として数値化した成績評価法である。

$$\text{GPA} = \frac{\sum \text{各授業科目*の} [\text{グレードポイント(GP)} \times \text{単位数}]}{\sum (\text{履修登録授業科目*の単位数})}$$

*算出対象除外科目を除く

国内外の多数の大学で採用されているグローバル化時代の成績評価システムとして近年推奨されている。

GPA制度を導入した理由

1. 国際的に通用する評価システムとして、国により導入が強く推奨されている。最近では、**教育関係の外部資金の獲得**にも必要な条件とされている。
2. 本制度が、**複数の評価軸に基づいた到達度評価**に適している。
3. 本学の学生の海外留学や大学院進学、および外国人留学生の本学への受入れをより推進しやすくなる。
4. 学習目標の達成度に応じた透明性のある成績評価を通じて、教育方法の改善、履修指導の強化により、**学生の学習成果の向上**を図ることができる。

2. GPA制度を実施するうえでの留意点



九州大学

目次

1. GPA制度とは？
2. GPA制度を実施するうえでの留意点
3. 現行のGPA制度の問題・課題
4. 新GPA制度の運用
5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法
6. 本学でのGPAの活用例
7. 参考となる国内外の大学での活用例

2. GPA制度を実施するうえでの留意点

1. GPA制度を単に導入するだけでは、教育の質の向上が図れない！学生をよりの確かつ精力的な学習へ導くことが狙い。

学生・教員の双方が、GPA制度の趣旨を理解し、認識を変えて授業・学習・成績評価に真摯に向き合う。

2. 責任ある履修を通じた学業へのモチベーション向上のため、教員によるきめ細やかな日常的な履修指導や学習支援を行う。

2. GPA制度を実施するうえでの留意点

3. 授業の到達目標を明確にする観点から、シラバス、ルーブリックを作成し、そこで示される評価基準に連動した成績評価を行う。

成績評価の厳格化にもなり、授業の見直しによる教授活動の改善へとつながる。

*「**成績評価の厳格化**」とは、

評価基準に基づいた**適正な成績評価**を行っていくことが、

学生のみならず、外部から見ても明確であること、と解釈する。

4. 部局間での成績評価のばらつきをなくす。

成績評価基準の全学的統一化

(C:Satisfactory: GP=2: 望ましい基準)

GPA制度の**各基準を正しく理解**し、学生は目標に向かって学習し、教員は適切に評価する。部局によって不公平感をもたらさないようにする。

2. GPA制度を実施するうえでの留意点

5. 教員間で成績評価結果をはじめ、GPA制度の運用に関する情報を共有し、PDCAサイクルにより継続的な教育改善を図り、学生の教育の質を向上させる。

3. 現行のGPA制度の問題・課題



九州大学

目次

1. GPA制度とは？
2. GPA制度を実施するうえでの留意点
3. 現行のGPA制度の問題・課題
4. 新GPA制度の運用
5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法
6. 本学でのGPAの活用例
7. 参考となる国内外の大学での活用例

3-1. 現行制度の問題点・課題

- 現行のGPA制度の実施における問題点
- 九大のGPAの現状
 - 学内の格差
 - 海外の大学との関係
- 新GPA制度の実施で期待できる改善点
 - 複数の評価軸に対応する制度の実質化
 - 学生に理解しやすい到達度
- 新GPA制度の導入で懸念される点
 - コース分け等の順位付け

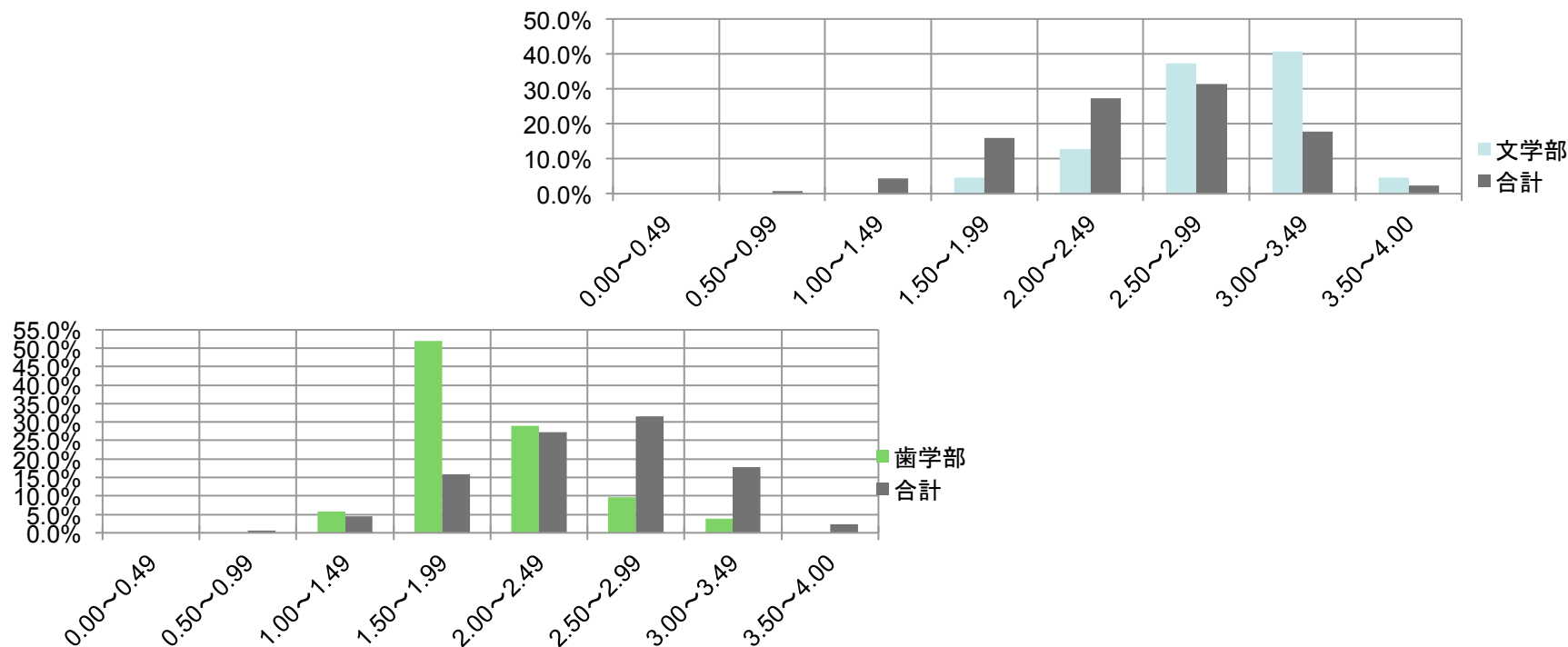
3. (1) 現行のGPA制度の実施における問題点

現状では、GPA制度の評語(グレード)やGP(グレードポイント)を意識せずに、定期試験等を積み上げた結果をGPに換算している場合がある。従来の優良可(不可)の成績評価から脱却できていない可能性もある。

点数	GP	評価	評語
90~100	4 (=A)	Excellent	特に優れている
80~89	3 (=B)	Good	優れている
70~79	2 (=C)	Fair	普通である
60~69	1 (=D)	Pass	単位は認める
59以下	0 (=F)	Fail	不合格

単位さえ取得できれば良いと考えている学生も多く、1点のGPしか得られないケースが数多く存在するため、学生のGPAの水準が低く抑えられる傾向にある。

3. (2) 九大のGPAの現状 <文学部、歯学部の例>



評語は全学で同一であるにも関わらず、各部局で評価に大きなバラツキがある。学内に不公平感をもたらさないためにも、また、部局間を学生が転籍する場合など、横断的な教育に備えて、評価基準に対する適切な認識の共有が必要である。

- ・21世紀プログラムの学生は、個々が選択した異なる学部の評価を受けている。
- ・留学生の視点で考えると、学生評価に関するポリシーの欠如と受け止められかねない。

学習目標の設定と到達度の評価方法について実質的な全学的な統一化が必要。

<海外の大学との関係①>

大学間学生交流協定校(短期留学先)16校の受入GPA基準【留学生課より】

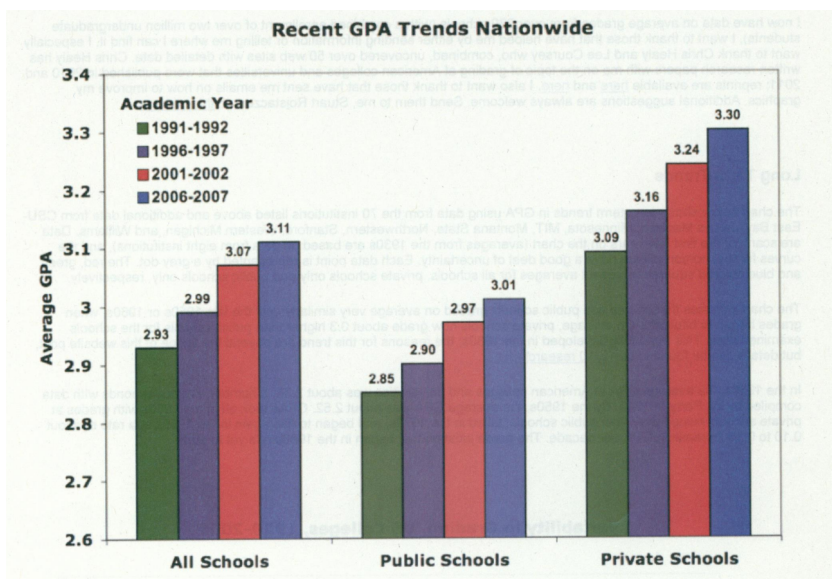
大学名	国	必要言語	必要GPA	備考
ワシントン大学	アメリカ	英語	3	
ベレア大学	アメリカ	英語	2.8	
ブリストル大学	イギリス		3.2	3.0以下の場合には推薦状等要
グラスゴー大学	イギリス		3	
シェフィールド大学	イギリス	英語	3	
シドニー大学	オーストラリア		3	
シドニー工科大学	オーストラリア	英語	2.5	
ライデン大学	オランダ	英語	3.2	
香港中文大学	中国	英語	3	3.0以下の場合には推薦状要
ソウル大学校	韓国	韓国語	3	
慶熙大学校	韓国		3	
成均館大学校	韓国		2.7	
高麗大学校	韓国		2.5	

- 欧米の大学の留学生の受け入れ基準は概ね3.0以上
- 米国大学生のGPAが3.0程度であることを考えると、米国では上位半分の学生が対象となるのに対し、九大生の場合は上位25~30%でなければならない。

<海外の大学との関係②>

特に欧米の大学では、年々GPAが上昇する傾向にある。

(見習う必要はないが、本学のGPAと格差があることは認識しておかなければならない)



(参考)

平成25年度卒業生

本学のGPA疑似平均値:約2.5

(米国の大学のGPAの推移)

3. (3) GPA制度の改定で期待できること

1) 複数の評価軸に対応する制度の実質化

授業の到達目標は、知識の獲得だけではなく、思考力、判断力及びスキルを身に付けること。試験は到達度をはかる手段の一つとして活用。(目標への到達度こそが成績評価となる。)
(優良可の成績評価の意識を引きずった状態や、単純な素点の積上げをGPA制度のグレードに変換すればよいという考え方は不適切である。)

理系科目でよく見られる評価方法の例:

(出席 10点、小テスト・レポート10点、中間試験30点、定期試験50点)

学生が本当に講義の内容を理解したかどうかを計る目安は、試験結果が主たる要素となっており、毎年類似問題を出題した場合などは特に真の理解度を確認できないことになる。

2) 学生に分かり易い到達度

ルーブリックに基づいた評価で、学生自身が事前に求められる知識・技能・態度等の水準を把握することで、授業の実効性の高まりが期待できるとともに、得意・不得意な点を把握しやすくなり、また、教員も自らの授業を見直す機会となる。

評価(GP)	A(4)	B(3)	C(2)	D(1)	F(0)
知識					
技能					
態度					

3. (4) GPA制度の実施で懸念される点について

GPA制度を導入した場合、従来の100点満点の点数による細かな評価と比べると、5段階のラフなものになることが短所として考えられる。

従って、多数の学生を成績で相対評価する必要がある場合(コース分けなど)学生間の相対差が小さくなり、順位付けが困難になることが懸念される。

<試算1：工学部地球環境工学科150名をコース分けしたケース>

従来の各科目100点満点の成績を用いた場合と、GPAを用いた場合の学生順位を比較した。

<工学部地球環境工学科のコース分け要領>

以下の3グループから選択された20科目の平均値

第1グループ

→教養教育科目の中から成績上位8科目

第2グループ

→理系基礎科目から成績上位8科目

第3グループ

→低年次専攻教育科目から4科目

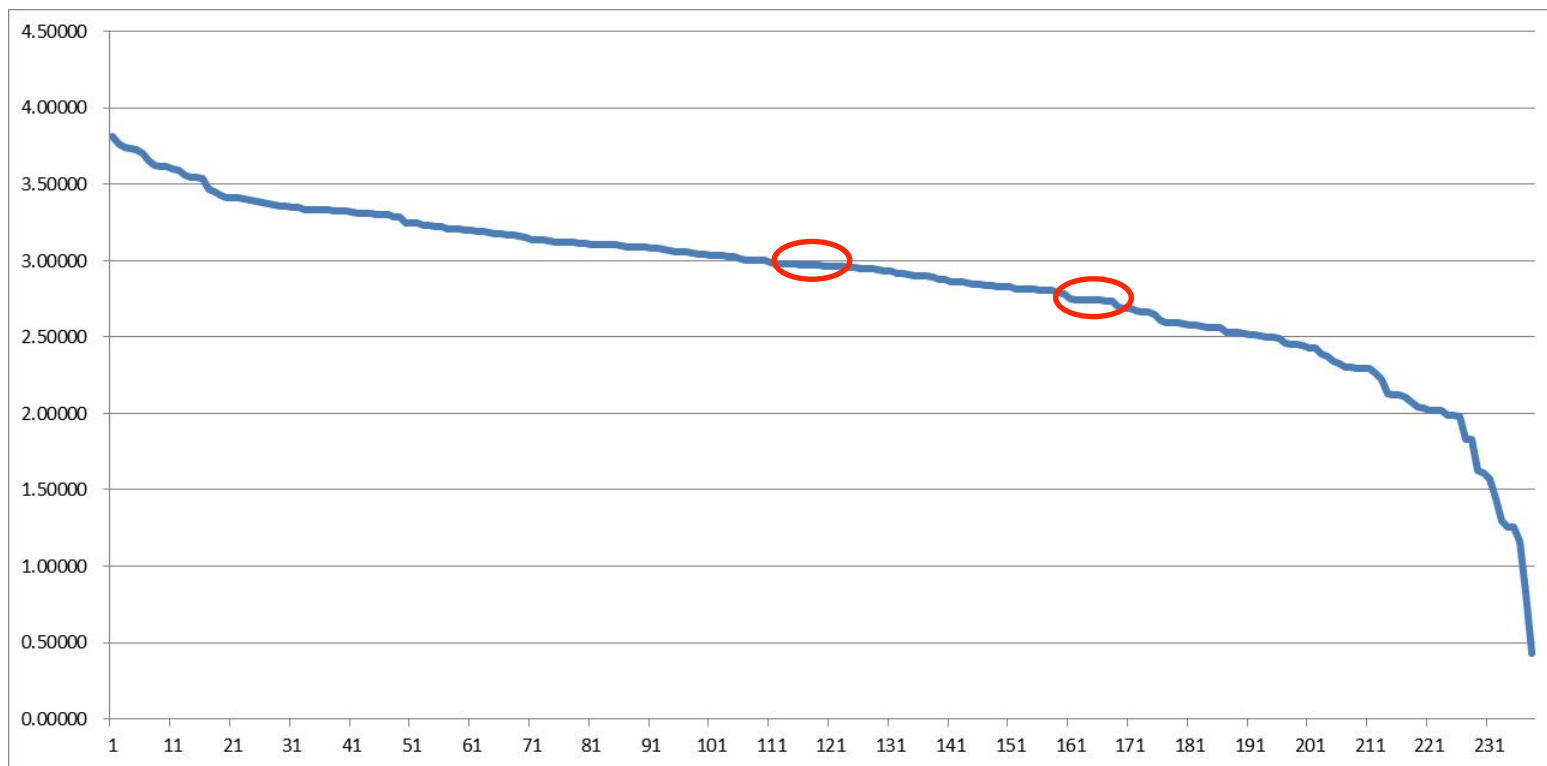
<結果の一部抜粋>

点数による順位	GPAによる順位
94	86
134	135
57	29
7	5
42	26
72	82
130	124
109	90
71	73
143	139

- ※ 概ね同じような順位が付いていることがわかる。
- ※ 150名の順位付けを20科目のGPAで行うと、従来より同点者が多く発生する。
 - 同点者を順位付けするルールを追加する必要がある。

< 試算2: 農学部236名をGPAで順位付けしたケース >
初年度修得単位〇〇科目のGPAを用いて順位付けした。

GPA値



学生順位

* 最大4名の同点者が発生している。

GPAで学生の順位付けを行うには

- 1) 順位付けしなければならない学生数と算出の方法
(評価対象の科目数とGPA値を少数点何桁まで用いるか)
を吟味し、適切な利用が必要である。
- 2) GPAだけで無理に順位付けするよりも、追加のルールを
設ける方が望ましい。

4. 新GPA制度の運用



九州大学

目次

1. GPA制度とは？
2. GPA制度を実施するうえでの留意点
3. 現行のGPA制度の問題・課題
4. **新GPA制度の運用**
5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法
6. 本学でのGPAの活用例
7. 参考となる国内外の大学での活用例



4. 新GPA制度の運用

- (1) グレード(評語)の説明を改定
- (2) グレードによる評価(評点)への転換
- (3) D評価も再履修可とすること
- (4) 学位プログラムごとのルーブリック作成
- (5) GPA2以上を卒業の目安とすること

4. (1) グレード(評語)の説明を改定__1

ルーブリック(後述)およびシラバスに明記された各科目の学習目標を基準に、学修の達成度を以下の5段階で評価する(カッコはGP)。

A(4) B(3) C(2) D(1) F(0)

評語の説明

A: Excellent	基準を大きく超えて優秀である
B: Good	基準を超えて優秀である
C: Satisfactory	望ましい基準に達している
D: Pass	単位を認める最低限の基準には達している
F: Fail	基準を大きく下回る

4. (1) グレード(評語)の説明を改定__2

D(=1)以上の成績で単位を付与する点は変わらない。
ただし、教育の質保証の観点から、「**C(=2)以上の評価が、望ましい基準の達成レベル**」であることについて認識を共有する。

望ましい基準に達するよう

学生は学習に取り組み、
教員は学生を指導する。

4. (2) グレードによる評価、評定への転換

改定したGPA制度の評価基準に即した評価



グレードを100点換算する場合、以下の通りとする。

A(90～100点) B(80～89点) C(70～79点)
D(60～69点) F(0～59点)

4. (3) D評価も再履修可とすること

DおよびF評価の科目に対して再履修を認める。
。そして、その評価を上書きする(再履修の回数制限は設けない)。

ただし、現行制度下で評価された科目については再履修を認めない(平成26年度以前の入学者までは留意)。

4. (4) 学位プログラムごとのルーブリック作成__1

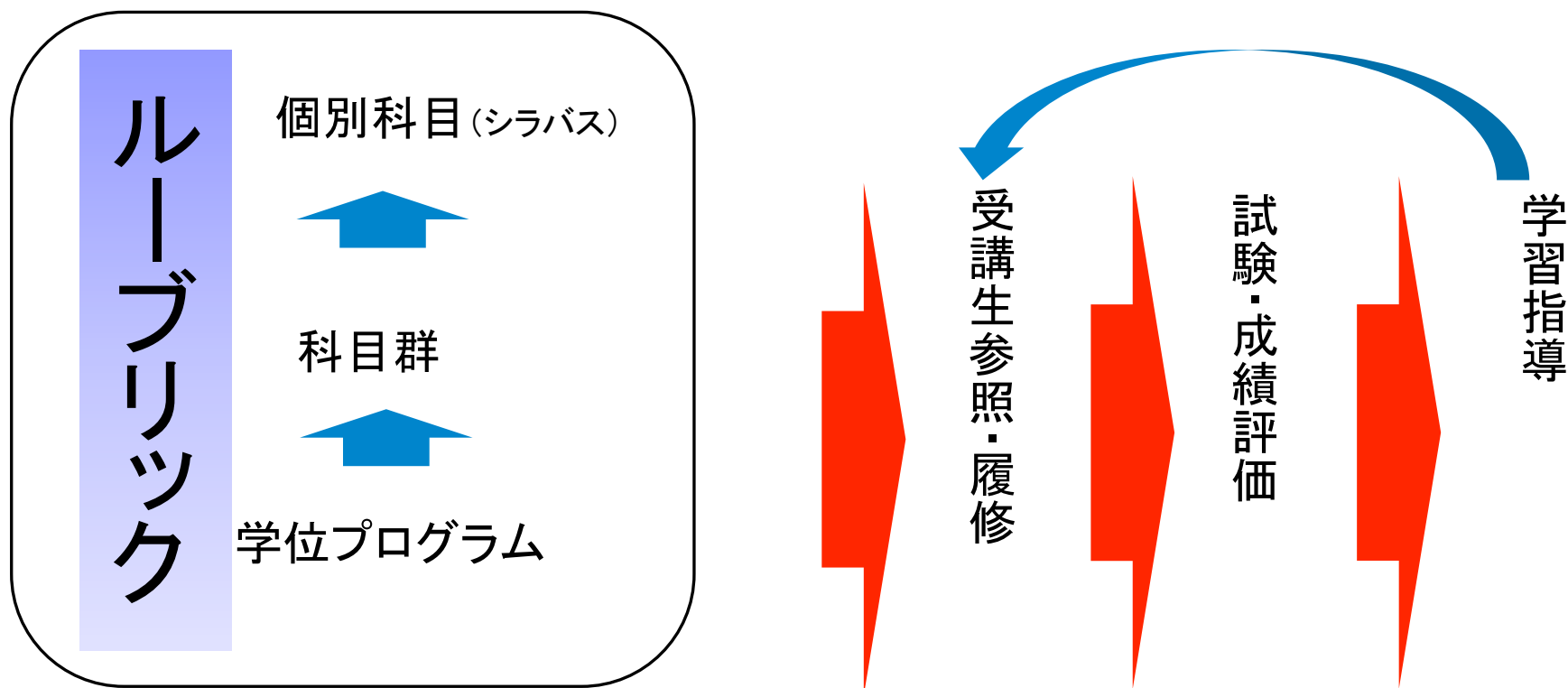
ここでいうルーブリック*とは、「**目標に準拠した評価**」のための「**基準**」つくりの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す評価基準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な**評価基準をマトリクス形式**で示す評価指標である。

これは、学位プログラムごとに設けられた**各科目のシラバスの当該項目**に対し、一種の準拠枠ないし参照系ともなるものである。

(*詳細は別項目で説明)

4. (4) 学位プログラムごとのルーブリック作成__2

ルーブリックを活用した実効性のある評価→指導・改善
 学生にもよりわかりやすい目標設定を提示でき、
 教員にとっては自身の授業を見直す機会となる。



* ルーブリックは、学問分野やコースの特性に応じて作成

4. (5) GPA2以上を卒業の目安とすること__1

新GPA制度・・・平成27年度より全学一斉に開始
(「卒業の目安」を除く)



中間データの分析・検証



新制度の実施による変化・傾向を検証し、学部において取組を検討する。

全面導入・・・
平成28年度入学生より
「GPA2以上を卒業の目安とする」(学年進行)


4. (5) GPA2以上を卒業の目安とすること__2

GPA算出除外科目は、現行どおり各部局または各学位プログラムにおいて決定する。

原則として以下のものが算出除外科目となる。

- * 合否判定科目
- * 本学以外で修得した科目を単位として認めたもの

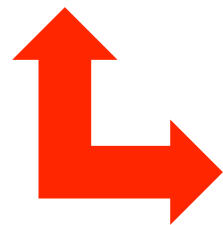


 「目安」を具体的にどのように設定するか。
ただしGPAの趣旨に十分配慮する必要。

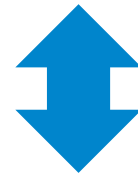
各
部
局
の
課
題

4. (5) GPA2以上を卒業の目安とすること__3

- 教育の質保証へ向けた取り組みであることを内外に明示
- 学生の学習意欲の向上
- 責任ある履修行動への誘導



責任ある履修指導体制の構築
と表裏一体



GPAの活用と連動

5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法



九州大学

目次

1. GPA制度とは？
2. GPA制度を実施するうえでの留意点
3. 現行のGPA制度の問題・課題
4. 新GPA制度の運用
5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法
6. 本学でのGPAの活用例
7. 参考となる国内外の大学での活用例

(5-1) 学生の学習成果を評価する。

ルーブリックを用いた学習成果の評価法



九州大学

5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法

カリキュラムの三要素

目標

高すぎず、低すぎず。モチベーションを高める。

方略

わくわくする。

評価

学習者

人を創る。

ルーブリックって?? : 学習成果の達成度・成績評価の基準を表すマトリクス

学習成果の水準

歯科矯正学ルーブリック(学部教育)

観点・コンピテンシ		水準・コンピテンシー					
		A : Excellent 基準を大きく超えている GP : 4 歯科矯正学分野で第一人者に求められる水準	B : Good 基準を超えている GP : 3 九州大学歯学部卒業生に期待される水準	C : Satisfactory 望ましい基準に達している GP : 2 4年次終了時点で卒業すべき歯科医師国家試験合格相当水準	D : Fair 単位を認定する最低限の基準には達している GP : 1 歯学教育モデル・コア・カリキュラム学習目標到達程度	F : Fail 基準を大きく下回っている GP : 0	
観点	矯正歯科治療の一般的・学術的基盤に対する知識 (一般矯正学講義)	一般歯科医として必要な歯科矯正学的知識を有している。	形態と機能を関連づけながら、顎顔面の成長発育の組織・細胞、分子、遺伝子レベルでのメカニズムを説明できる。 様々な先天異常や不正咬合の成り立ちを遺伝子レベルで説明できる。 不正咬合にかかわる障害とリスクを説明できる。 不正咬合に伴うリスクや不正咬合による障害と関連づけて矯正治療の意義を適切に説明できる。 不正咬合治療に関連する最低限の法的規範並びにインフォームドコンセントの概念を概説できる。	形態と機能を関連づけながら、顎顔面の成長発育の組織学的レベルでのメカニズムを説明できる。 様々な先天異常や不正咬合の成り立ちを説明できる。 不正咬合にかかわる障害とリスクを説明できる。 不正咬合に伴うリスクや不正咬合による障害と関連づけて矯正治療の意義を説明できる。 不正咬合治療に関連する最低限の法的規範並びにインフォームドコンセントの概念を概説できる。	顎顔面の成長発育の組織学的レベルでのメカニズムを説明できる。 不正咬合にかかわる障害とリスクを説明できる。 不正咬合に伴うリスクや不正咬合による障害と関連づけて矯正治療の意義を説明できる。 不正咬合治療に関連する最低限の法的規範並びにインフォームドコンセントの概念を概説できる。	顎顔面の成長発育のメカニズムを説明する。口唇口蓋裂を含め、様々な不正咬合の成り立ちを説明することができる。 不正咬合にかかわる障害とリスクを説明する。不正咬合治療に関連する最低限の法的規範並びにインフォームドコンセントの概念を概説する。	矯正歯科治療の一般的・学術的基盤に対する知識が不十分である。
	プロフェッショナリズムと倫理観ならびにチーム学習(矯正診断学講義・実習)	一般歯科医に求められる不正咬合治療に関連するプロフェッショナル意識と倫理観を有し、学習者としてのコミュニケーション能力を有している。	歯科矯正学学習チームの一員として積極的にチームに貢献できる。 プロフェッショナリズムを基盤とした適切な倫理観を有していることを示すことができる。 矯正歯科診断の過程を討議することができる。 診断の結果を、適切に分かりやすく患者などの第三者に説明することができる。 チームのメンバーを公正に評価することができる。チームのメンバーに信頼される。	歯科矯正学学習チームの一員としてチームに貢献できる。 プロフェッショナリズムを基盤とした適切な倫理観を有していることを示すことができる。 矯正歯科診断の過程を討議することができる。 診断の結果を適切に分かりやすく患者などの第三者に説明することができる。 チームのメンバーを公正に評価することができる。	歯科矯正学学習チームの一員として行動できる。 プロフェッショナリズムを基盤とした適切な倫理観を有していることを示すことができる。 矯正歯科診断の過程を討議することができる。 診断の結果を第三者に説明することができる。 チームのメンバーを公正に評価することができる。	歯科矯正学学習チームの一員として行動できる。 適切な倫理観を有していることを示すことができる。 矯正歯科診断の過程を討議することができる。 診断の結果を第三者に説明することができる。	プロフェッショナリズムとチーム学習に関する知識を身に付けておらず、適切に行動することができない。
	診療の実践 (矯正診断学・治療学講義・実習)	一般歯科医として求められる不正咬合診断の技能と治療に関する知識を有している。	エビデンスに立脚した問題解決型の診断法に沿った適切な診査、検査法を説明することができる。 診察結果と不正咬合の分類に基づいて、骨格系、歯系、機能系の特徴を分析・分類して問題点リストを作成することができる。 作成した問題点リストをもとに不正咬合の診断を実施する方法を説明することができる。 検査結果に基づいて適切な治療時期を設定することができる。 問題点リストと診断に基づいて治療方針並びに治療計画の立案をシミュレートすることができる。 エビデンスと治療方針に基づいて適切に治療計画を立案し、矯正装置を選択することができる。 矯正装置の作製のためのワイヤーベンディングや自在ロウ着等の基本的な手技を安全かつ適切に行うことができる。 治療に伴うリスクも含めた組織学的レベルでの生体反応の分子基盤とリスク回避法を説明することができる。	エビデンスに立脚した問題解決型の診断法に沿った適切な診査、検査法を説明することができる。 診察結果と不正咬合の分類に基づいて、骨格系、歯系、機能系の特徴を分析・分類して問題点リストを作成する方法を説明することができる。 作成した問題点リストをもとに不正咬合の診断を実施する方法を説明することができる。 検査結果に基づいて適切な治療時期を設定することができる。 問題点リストあるいは診断に基づいて治療方針の策定をシミュレートすることができる。 治療方針に基づいて適切に治療計画を立案し、矯正装置を選択することができる。 矯正装置の作製のためのワイヤーベンディングや自在ロウ着を安全に行うことができる。 治療に伴うリスクも含めた組織学的レベルでの生体反応の生物学的基盤とリスク回避法を概説することができる。	エビデンスに立脚した問題解決型の診断法に沿った適切な診査、検査法を説明することができる。 診察結果と不正咬合の分類に基づいて、骨格系、歯系、機能系の特徴を分析・分類して問題点リストを作成する方法を説明することができる。 作成した問題点リストをもとに不正咬合の診断を実施する方法を説明できる。 典型的な患者に対して適切な治療時期を設定することができる。 治療方針を立案する方法を説明できる。 治療方針に基づいて矯正装置を概略的に選択することができる。 矯正装置の作製のためのワイヤーベンディングや自在ロウ着を行うことができる。 治療に伴うリスクも含めた組織学的レベルでの生体反応とリスク回避法を概説することができる。	エビデンスに立脚した問題解決型の診断法に沿った適切な診査、検査法を説明することができる。 診察結果と不正咬合の分類に基づいて、骨格系、歯系、機能系の特徴を分析・分類して問題点リストを作成する方法を説明することができる。 不正咬合の診断を実施する方法を説明することができる。 適切な治療時期を設定する方法を説明することができる。 治療方針を立てる方法を説明できる。 矯正装置の種類と効果を概説できる。 治療に伴う生体反応を概説することができる。	診療の実践にかかわる知識や技能が身に付いていない。
	チーム医療とコミュニケーション (一般矯正学講義、矯正治療学講義、矯正診断学実習)	歯科医師に求められるコミュニケーション能力を有している。	包括的歯科医療チームにおける矯正歯科医と一般歯科医の役割を説明できる。 口唇裂口蓋裂治療における矯正歯科医の役割を説明できる。 顎顔面整形治療における矯正歯科医の役割を説明できる。 先天異常治療にかかわる地域のボランティア活動に参加する。 患者ならびにチーム内の医療人と適切なコミュニケーションを取ることができる。 患者に不正咬合診断ならびに治療に関する情報をわかりやすく適切に伝達することができる。	包括的歯科医療チームにおける矯正歯科医と一般歯科医の役割を説明できる。 口唇裂口蓋裂治療における矯正歯科医の役割を説明できる。 顎顔面整形治療における矯正歯科医の役割を説明できる。 先天異常治療にかかわる地域のボランティア活動に参加する。 患者ならびにチーム内の医療人と適切なコミュニケーションを取ることができる。 患者に不正咬合診断ならびに治療に関する情報を伝達することができる。	包括的歯科医療チームにおける矯正歯科医と一般歯科医の役割を説明できる。 口唇裂口蓋裂治療における矯正歯科医の役割を説明できる。 顎顔面整形治療における矯正歯科医の役割を説明できる。 患者ならびにチーム内の医療人とコミュニケーションを取ることの重要性を説明できる。 患者などの第三者に不正咬合診断ならびに治療に関する情報を伝達することができる。	矯正歯科医の果たすべき役割を概説することができる。 不正咬合治療における一般歯科医の役割を適切に説明できる。 矯正歯科治療における矯正歯科医の役割を説明できる。 患者ならびにチーム内の医療人とコミュニケーションを取ることの重要性を説明できる。 患者などの第三者に不正咬合診断ならびに治療に関する情報を伝達することができる。	包括的歯科医療としてのチーム医療・地域医療における一般歯科医と矯正歯科医の役割について理解しておらず、適切な行動を取ることができない。
地域医療の中での役割と医療供給の公平性 (一般矯正学講義、矯正治療学講義・実習)	地域歯科医療において矯正歯科医との連携を行い、地域の不正咬合患者の健康増進に公平に貢献するための準備ができている。	地域医療における小児歯科医、矯正歯科医、口腔外科医ならびに一般歯科医の役割分担について説明できる。 学校歯科保健を含め不正咬合のスクリーニング方や予防法を適切に説明できる。 矯正歯科治療の質を高めるために診療アウトカムを測定することができる。 治療の予後に関連する因子や保定の重要性を説明できる。 矯正歯科治療に伴うリスクや歯の移動の後戻りにメカニズムを顎口蓋裂機能、ならびに顎顔面の成長発育に伴う不正咬合の再発と関連づけて概説することができる。 矯正歯科医療の公平な供給に努めることができる。 保定装置を安全かつ適切に製作することができる。	地域医療における小児歯科医、矯正歯科医、口腔外科医ならびに一般歯科医の役割分担について説明できる。 学校歯科保健を含め不正咬合のスクリーニング方や予防法を適切に説明できる。 矯正歯科治療の質を高めるために診療アウトカムを測定することができる。 矯正歯科治療の予後に関連する因子や保定の重要性を説明できる。 矯正歯科治療に伴うリスクや顎口蓋裂機能、ならびに顎顔面の成長発育に伴う不正咬合の再発と関連づけて説明することができる。 矯正歯科医療の公平な供給に努めることができる。 保定装置を安全に製作することができる。	地域医療における矯正歯科医の役割を概説できる。 学校歯科保健を含め不正咬合のスクリーニング方や予防法を適切に説明できる。 矯正歯科治療の予後に関連する因子や保定の重要性を説明することができる。 矯正歯科治療に伴うリスクや顎口蓋裂機能、ならびに顎顔面の成長発育に伴う不正咬合の再発と関連づけて説明することができる。 矯正歯科医療の公平な供給に努めることができる。 保定装置を製作することができる。	地域医療における矯正歯科医の役割を概説できる。 不正咬合の予防法を説明できる。 矯正歯科治療の予後に関連する因子や保定の重要性を説明することができる。 矯正歯科治療に伴う歯の移動の後戻りを説明することができる。 保定装置を製作することができる。 矯正歯科医療の公平な供給が必要であることを説明できる。	不正咬合の予防と予後管理について理解しておらず、適切な行動を取ることができない。	

ルーブリックとは

中教審大学教育部会(2011年12月9日)説明資料
関西国際大学 濱名 篤先生

- (1)「**目標に準拠した評価**」のための「**基準**」つくりの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す評価基準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な**評価基準をマトリクス形式**で示す評価指標である。
- (2)学習者の「**パフォーマンスの成功の度合いを示す**尺度と、それぞれの尺度に見られるパフォーマンスの特徴を説明する記述語で構成される、**評価基準の記述形式**」として定義される評価ツールのことであり、アメリカにおいて先進的に開発され、数多くの高等教育機関が導入・活用している。
- (3)レベルの目安を数段階に分けて記述して、達成度を判断する基準を示すものである。学習結果のパフォーマンスレベルの目安を数段階に分けて記述して、学習の達成度を判断する基準を示す教育評価法として盛んに用いられるようになった。これまでの評価法は客観テストによるものが主流を占めていたが、知識・理解はそれで判断できたとしても、いわゆるパフォーマンス系(思考・判断、スキルなど)の評価は難しい。ポートフォリオ評価などで**ルーブリックを用いて予め「評価軸」を示しておき、「何が評価されることかなのか」**についての情報を共有できるねらいもある。

(5-2) 学習成果の評価基準としてのルーブリック

学習目標の3つの領域と深度

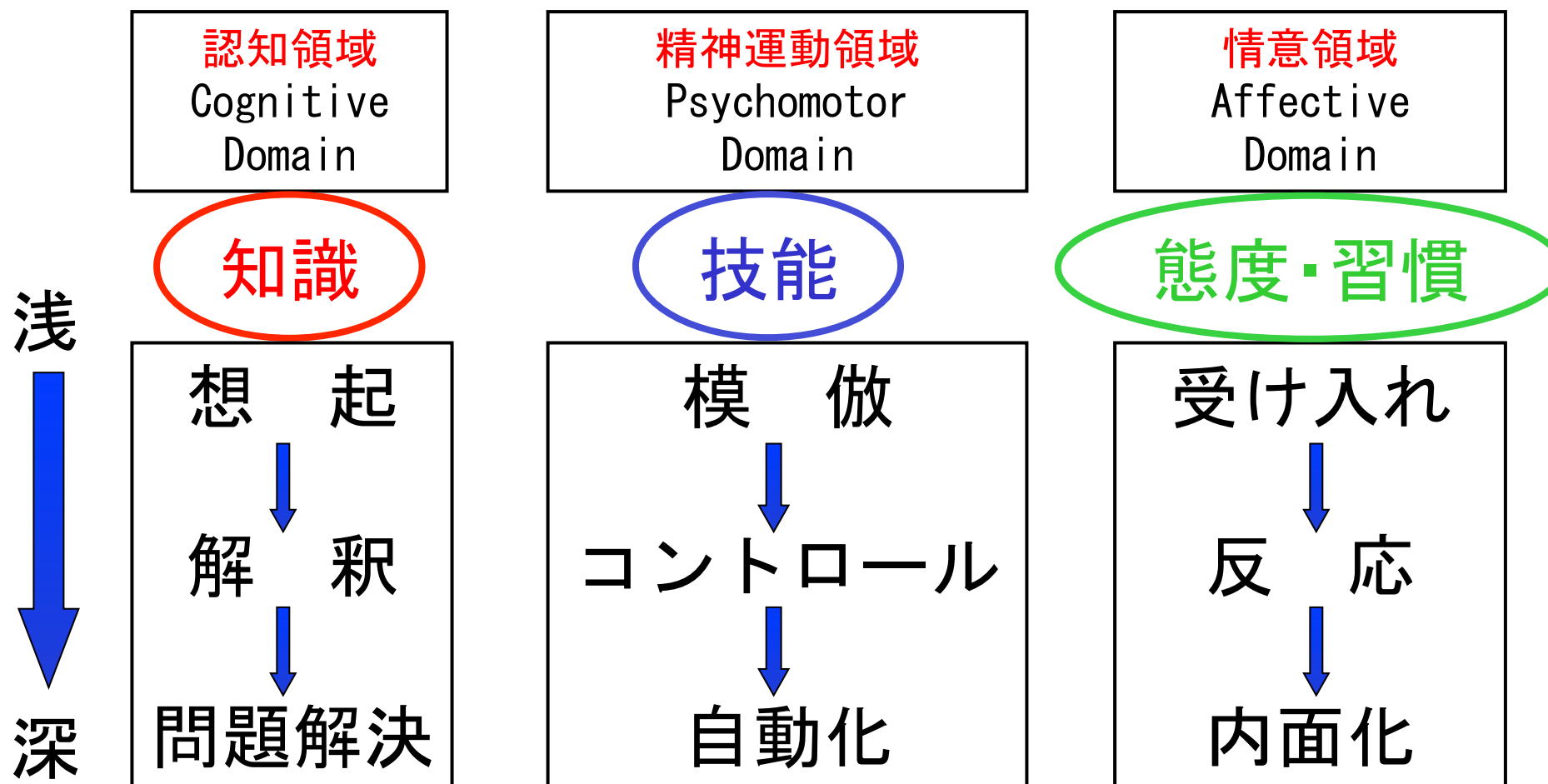
学習目標の種類に合わせた評価法



九州大学

5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法

学習目標の分類 (Taxonomy)



例 車椅子訓練

G10（一般目標）：

障害をもつ人のサポートをするために、
車椅子の構造と機能を理解し、安全な取り扱いと
ルール・マナーを修得する。

SB0s（個別行動目標）：

- 1 車椅子の構造を述べる。
- 2 安全な停止・始動をする。
- 3 車椅子を駆動する。
- 4 車椅子の分解修理をする。
- 5 . . .
- 6 障害をもつ人の心情に配慮する。

教育目標分類

知識（想起 → 解釈 → 問題解決）
技能（模倣 → コントロール → 自動化）
態度（受け入れ → 反応 → 内面化）

学習者が			
1	車椅子の構造を述べる。	知識	ル ー ブ リ ッ ク の 縦 軸
2	車椅子の運行上のルールについて説明する。	知識	
3	安全な停止・始動をする。	技能	
4	車椅子を駆動する。	技能	
5	車椅子の分解修理をする。	技能	
6	障害をもつ人の心情に配慮する。	態度	

車いす訓練のルーブリック

評価 (GP)	A (4)	B (3)	C (2)	D (1)	F (0)
知識 知識の質の評価 知識の量の評価 (順次性)	車椅子との構造上の問題に対する改善策を提案する。 (問題解決)	車椅子の構造上の問題を提起する。 (解釈)	車椅子の構造を述べる。(想起)	車椅子の構造を概説する。(想起)	車椅子の構造を説明できない。
	車椅子の運行上のルール、バリアフリーおよび車椅子利用のリスクについて説明する。(想起)	車椅子の運行上のルールと車椅子利用のリスクについて説明する。(想起)	車椅子の運行上のルールについて説明する。(想起)	車椅子の運行法について説明する。(想起)	車椅子の運行法を説明できない。
専門的技能 汎用的技能	不測の事態に対応して素早く安全な停止・始動をする。 (自動化)	素早く安全な停止・始動をする。 (コントロール)	安全な停止・始動をする。 (コントロール)	停止・始動をする。 (模倣)	停止・始動ができない。
	車椅子を素早く安全に駆動する。 (コントロール)	車椅子を安全に駆動する。(コントロール)	車椅子を駆動する。 (模倣)	車椅子に安全に座る。 (模倣)	車椅子に安全に座ることができない。
	工場で組み立て工として働く。 (自動化)	図面を見ながら車椅子の分解修理をする。 (コントロール)	図面を見ながら簡単な修理をする。 (模倣)	修理会社へ連絡する。 (問題解決)	修理会社への連絡方法を述べる。 (想起)
態度	障害を持つ人の心情に配慮して積極的な社会貢献活動を行う。 (内在化)	障害を持つ人の心情に配慮して車椅子での移動を介助する。 (反応)	障害をもつ人の心情に配慮する。 (受け入れ)	他人の心情に配慮する。(受け入れ)	他人の心情に配慮しない。

車いす訓練のルーブリック

評価 (GP)	A (4)	B (3)	C (2)	D (1)	F (0)
知識 知識の質の評価 知識の量の評価 (順次性)	車椅子との構造上の問題に対する改善策を提案する。 (問題解決)	車椅子の構造上の問題を提起する。 (解釈)	車椅子の構造を述べる。(想起)	車椅子の構造を概説する。(想起)	車椅子の構造を説明できない。
	車椅子の運行上のルール、バリアフリーおよび車椅子利用のリスクについて説明する。(想起)	車椅子の運行上のルール、バリアフリーのリスクについて説明する。(想起)	車椅子の運行上のルール、バリアフリーのリスクについて説明する。(想起)	車椅子の運行法について説明する。(想起)	車椅子の運行法を説明できない。
専門的技術 汎用技術 組み込む	不測の事態に対応して素早く安全な停止・始動をする。 (自動化)	素早く安全な停止・始動をする。 (コントロール)	安全な停止・始動をする。 (コントロール)	停止・始動をする。 (模倣)	停止・始動ができない。
	車椅子を素早く安全に駆動する。 (コントロール)	車椅子を安全に駆動する。(コントロール)	車椅子を駆動する。 (模倣)	車椅子に安全に座る。 (模倣)	車椅子に安全に座ることができない。
	工場で組み立て工として働く。 (自動化)	図面を見ながら車椅子の分解修理をする。 (コントロール)	図面を見ながら簡単な修理をする。 (模倣)	修理会社へ連絡する。 (問題解決)	修理会社への連絡方法を述べる。 (想起)
態度	障害を持つ人の心情に配慮して積極的な社会貢献活動を行う。 (内在化)	障害を持つ人の心情に配慮して車椅子での移動を介助する。 (反応)	障害をもつ人の心情に配慮する。 (受け入れ)	他人の心情に配慮する。(受け入れ)	他人の心情に配慮しない。

知識習得の優先順位を組み込む

文系ディシプリン科目

(日)日本教育史(英)History of Japanese Education

到達目標

観点・領域	到達目標
知識・理解	学びの歴史について知り、その意味を理解する。
専門的技能	史料、文献を読み解き、教育史の史実を説明できる。
	教育史の解釈にもとづき自分の教育観を醸成できる。
汎用的技能	教育史の史実を歴史的文脈に沿って説明することができる。
態度・指向性	教育及びその歴史に対して問題意識を持つことができる。

日本教育史ルーブリック1

観点・領域	A (4)	B (3)	C (2)	D (1)	F (0)
知識・理解	教育史の史実、用語などを完璧に説明できる	教育史の史実、用語などを的確に説明できる	教育史の史実、用語などの概要を説明できる	教育史の基本的な事柄について説明できる	教育史の事柄について説明できない
専門的技能	史料、文献などを渉猟し、独創的な知見を述べることが出来る	史料、文献を読み、自分なりの意見を述べることが出来る	史料、文献を読み、史実について説明できる	史料、文献を読み、史実について理解出来る	史料、文献について理解できない。
汎用的技能	教育史の史実、用語などを歴史的文脈に沿って的確に説明できるとともに自分の見解を述べられる	教育史の史実、用語などを歴史的文脈に沿って的確に説明できる	教育史の史実、用語などを歴史的文脈に沿ってその概要を説明できる	教育史の基本的な事柄を歴史的文脈に沿って説明できる	教育史の史実、用語などを歴史的文脈に位置づけられない
態度	教育史の諸事項に対して高い問題意識を持つことが出来る	教育史の諸事項に対して問題意識を持つことが出来る。	教育史の諸事項に対して関心を持つことが出来る	教育史の諸事項に対して関心がある	教育史の諸事項に関心がない

農学部専攻教育科目

(日)魚類免疫学 (E)Fish Immunology

授業概要（講義科目）

- － 抗原特異的な免疫系（獲得免疫）と非特異的な免疫系（自然免疫）、および両者の相互関係を概説する。さらに、免疫系の系統発生学的解析から導かれる、魚類の免疫系の特徴について詳述する。

一般目標

- － 脊椎動物の免疫機構を形作る自然免疫・獲得免疫の概要を理解するとともに、養殖魚の病害防除に資するための基礎的な知見として、魚類と哺乳類の免疫機構の共通点と相違点を分子・細胞レベルおよび機能面から論ずることができる。

農学部専攻教育科目

(日)魚類免疫学 (E)Fish Immunology

個別目標

- 自然免疫で働く病原体のパターン認識分子および細胞の構造と機能を説明できる。
- 獲得免疫における抗原レセプターの多様化機構および抗原の排除機構を説明できる。
- 自然免疫と獲得免疫の協調関係を説明できる。
- 魚類に特有の免疫機構とその機能を説明できる。
- 免疫学の理解に役立つ適切な文献情報を見つけ出し、自ら学習に活用できる。
- 講義内容の理解を積極的に進めるために、文書および口頭で質疑できる。

魚類免疫学ルーブリック1

	水準	A	B	C	D	F
知識・理解	自然免疫と獲得免疫で働く分子・細胞の理解	自然免疫、獲得免疫の代表的な因子をそれぞれ3つ以上列挙し、それらの構造、機能、および相互関係を説明できる。	自然免疫、獲得免疫の代表的な因子をそれぞれ3つ以上列挙し、それらの構造と機能を説明できる。	自然免疫、獲得免疫の代表的な因子をそれぞれ3つ以上について機能を概説できる。	自然免疫、獲得免疫の代表的な因子をそれぞれ最低1つは概説できるが、構造と機能に関する理解は低い。	自然免疫、獲得免疫の概念がない。
	魚類の免疫機構の特徴の把握	魚類の免疫系の特徴を脊椎動物の進化と関連付けて理解している。	魚類の免疫系の特徴を2項目以上挙げ、それらが生じるメカニズムを説明できる。	魚類に特有な免疫因子の特徴を2項目挙げることができる。	魚類に特徴的な免疫因子を1つ挙げることができる。	魚類の免疫系の特徴を挙げることができない。

魚類免疫学ルーブリック2

	水準	A	B	C	D	F
汎用的技能	関連文献情報の獲得と批判的読解	講義内容に関連した英語文献を自らキーワードを設定して最新の英語論文を検索し、当該分野の最新知見を紹介できる。	Web of ScienceやPubmedを検索し、講義内容に関連した英語の原著論文・総説を得て、それらの内容を的確に文章で要約できる。	教員から示されたキーワードで和文の論文・総説・解説記事を検索し、与えられた課題に答えるレポートをまとめることができる。	指定されたキーワードで総説などの文献を検索できるが、講義内容との関連性の深い論文を吟味することができない。	講義内容に関連する総説などの文献を検索できない。
態度・志向性	授業内容の理解への積極性と簡潔な質疑能力	ほとんどの講義において、文書でも口頭でも簡潔に質疑した。	半分以上の講義において、文書による質問とともに口頭でも質疑した。	半分以上の講義において、質問を文書として提出した。	質問を文書として提出したのは半分未満の講義にとどまった。	ほとんど質問を提出しなかった。

心理テスト法演習

授業概要：

心理アセスメントを用いるために必要な背景の理論を理解した上で、各種の心理アセスメント技法（質問紙法、描画法、知能検査、発達検査、投影法）について体験的に学ぶ。検査者、被検者の両方の立場を体験することで、心理アセスメント法を有効性と危険性の両面を含めて理解する。

心理テスト法演習ルーブリック

	水準
A GP=4	扱った5つの技法全てについて目的と操作手順を一通り理解し、そのうち少なくとも2つの技法については各技法内の結果の統合的理解に至っている。また、5つの技法の共通性と相違から心理アセスメントとは何かという心理アセスメントそのものの背景にまで理解が及んでいる。
B GP=3	扱った5つの心理アセスメント技法全てについて目的と操作手順を一通り理解し、そのうち少なくとも2つの技法については各技法内の結果の統合的理解に至っている。
C GP=2	扱った5つの心理アセスメント技法のうち少なくとも3つの技法について目的と操作手順を理解しているが、他の技法については部分的な理解に留まっている。
D GP=1	扱った技法のうち1つでも目的と操作手順についての理解に至っているが、他の技法については部分的な理解に留まっている。
F GP=0	扱った5つの技法のうち、目的と操作手順の理解に至ったものが1つもない。

心理テスト法演習ルーブリック

解説

「心理テスト法演習」の授業では5つの技法を扱うが、その中には習得するためには現場での経験を数年要するものもあり(投影法など)、授業の中では操作手順を理解するところまでしか期待できない。また、個々の技法内でも多くの結果が得られ、その結果群を一つの解釈に統合することも職人芸的なスキルが要求されるため、授業内で全ての技法について達成することは容易ではない。

そのため、B: Goodを「扱った5つの心理アセスメント技法全てについて目的と操作手順を一通り理解し、そのうち少なくとも2つの技法については各技法内の結果の統合的理解に至っている。」とし、それを基準に他の評価も設定した。

(5-3) 学習成果の評価法

学習目標の種類に合わせた評価法



九州大学

5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法

測定しようとする行動と評価方法（評価方法とTaxonomyとの関係）

評価方法 Taxonomy		論述試験	口頭試験	客観試験	Simulation test				実地試験	観察記録	レポート	ポートフォリオ
					筆記型	模擬患者	モデル	コンピュータ				
認知領域 (知識)	想起	▲	▲	▼	▲	▲	▼	▲	▲	▲	▲	
	解釈	▲	▲	▼	▲	▲	▼	▲	▲	▲	▲	
	問題解決	▲	▲	▼	▲	▲	▼	▲	▲	▲	▲	
精神運動領域 (技能)						■	▼	■	■	■	■	
情意領域 (態度)						■	▼	■	■	■	■	
測定範囲		狭	狭	広	狭	狭	狭	中	狭	中	狭	狭

教育目標分類

知識 (想起 → 解釈 → 問題解決)
技能 (模倣 → コントロール → 自動化)
態度 (受け入れ → 反応 → 内面化)

	学習者が	Taxonomy	評価方法
1	車椅子の構造を述べる。	知識	論述試験・MCQ等
2	車椅子の運行上のルールについて説明する。	知識	論述試験・MCQ等
3	安全な停止・始動をする。	技能	実地試験・観察記録 simulation test等
4	車椅子を駆動する。	技能	実地試験・観察記録 simulation test等
5	車椅子の分解修理をする。	技能	実地試験・観察記録
6	障害をもつ人の心情に配慮する。	態度	実地試験・観察記録 ポートフォリオ等

車いす訓練のルーブリックと評価方法

評価(GP)	A(4)	B(3)	C(2)	D(1)	F(0)
筆記試験 MCQ	車椅子との構造上の問題に対する改善策を提案する。(問題解決)	車椅子の構造上の問題を提起する。(解釈)	車椅子の構造を述べる。(想起)	車椅子の構造を概説する。(想起)	車椅子の構造を説明できない。
	車椅子の運行上のルール、バリアフリーおよび車椅子利用のリスクについて説明する。(想起)	車椅子の運行上のルールと車椅子利用のリスクについて説明する。(想起)	車椅子の運行上のルールについて説明する。(想起)	車椅子の運行法について説明する。(想起)	車椅子の運行法を説明できない。
	不測の事態に対応して素早く安全な停止・始動をする。(自動化)	素早く安全な停止・始動をする。(コントロール)	安全な停止・始動をする。(コントロール)	停止・始動をする。(模倣)	停止・始動ができない。
観察記録 実地試験	車椅子を素早く安全に駆動する。(コントロール)	車椅子を安全に駆動する。(コントロール)	車椅子を駆動する。(模倣)	車椅子に安全に座る。(模倣)	車椅子に安全に座ることができない。
	工場を組み立て工として働く。(自動化)	図面を見ながら車椅子の分解修理をする。	図面を見ながら簡単な修理をする。	修理会社へ連絡する。	修理会社への連絡法を述べる。
態度	障害を持つ人の心情に配慮して積極的な社会貢献活動を行う。(内在化)	障害を持つ人の心情に配慮して車椅子での移動を介助する。(反応)	障害をもつ人の心情に配慮する。(受け入れ)	他人の心情に配慮する。(受け入れ)	他人の心情に配慮しない。

シミュレーションテスト・実地試験

ルーブリックを用いた評価の方法

評価 (GP)	A(4)	B(3)	C(2)	D(1)	F(0)
知識の質の評価	車椅子との構造上の問題に対する改善策を提案する。(問題解決)	車椅子の構造上の問題を提起する。(解釈)	車椅子の構造を述べる。(想起)	車椅子の構造を概説する。(想起)	車椅子の構造を説明できない。
知識 知識の量の評価 (順次性)	車椅子の運行上のルール、バリアフリーおよび車椅子利用のリスクについて説明する。(想起)	車椅子の運行上のルールと車椅子利用のリスクについて説明する。(想起)	車椅子の運行上のルールについて説明する。(想起)	車椅子の運行法について説明する。(想起)	車椅子の運行法を説明できない。
専門的技能 汎用的技能	不測の事態に対して素早く安全な停止・始動をする。(自動化)	素早く安全な停止・始動をする。(コントロール)	安全な停止・始動をする。(コントロール)	停止・始動をする。(模倣)	停止・始動ができない。
	車椅子を素早く安全に駆動する。(コントロール)	車椅子を安全に駆動する。(コントロール)	車椅子を駆動する。(模倣)	車椅子に安全に座る。(模倣)	車椅子に安全に座ることができない。
	工場を組み立てる仕事として働く。(自動化)	図面を見ながら車椅子の分解修理をする。(コントロール)	図面を見ながら簡単な修理をする。(模倣)	修理会社へ連絡する。	修理会社への連絡方法を述べる。
態度	障害を持つ人の心情に配慮して積極的な社会貢献活動を行う。(内在化)	障害を持つ人の心情に配慮して車椅子での移動を介助する。(反応)	障害をもつ人の心情に配慮する。(受け入れ)	他人の心情に配慮する。(受け入れ)	他人の心情に配慮しない。

GP=1 ?

GP=2 ?

ルーブリック作成と使用上の注意点

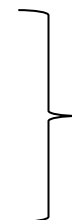
- それぞれの個別到達目標は測定可能か？
- どのような方法で測定するか？
- 学習の深度によって測定方法が異なる場合がある。
- 学習の優先順位を理解しやすいようにする。
- 順次性を縦軸に表すと授業進行と学習目標との関連が理解しやすい。
- 学生が自己評価にも使用することを念頭に置いて作る。
- 最終的な評価はルーブリックの各項目と学問分野や授業科目の特性を考慮して総合的に判断する。



最後に

ルーブリックの目的

学生の学力の向上
教員の教授方法の改善



教育の質の向上

であることを念頭に作成する。

6. 本学でのGPAの活用例



九州大学

目次

1. GPA制度とは？
2. GPA制度を実施するうえでの留意点
3. 現行のGPA制度の問題・課題
4. 新GPA制度の運用
5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法
6. 本学でのGPAの活用例
7. 参考となる国内外の大学での活用例

GPA制度の活用例(九州大学の現状)

1. 留学生の受け入れと送り出しの目安

例: ワシントン大学GPA3.0を要求(数値は大学による)

九州大学の受け入れ要件はGPA3.2

2. 学生表彰(農学部)

3. 「チャレンジ21(副専攻的履修)」申請の目安(GPA2.8)

4. 短期教育プログラム等の選抜の一つの要素

例: ケンブリッジ大学英語・学術研修

(英語以外の成績を考慮するため)

5. 保護者への成績通知 など

参考：学部ごとのコース分け等の状況

	コース分け	卒業論文ゼミ等
文学部	1年後期終了時に専門を決定	4年次に論文指導教員を決定
教育学部		3年前期学系決定、3年6月に専攻科目を決定
法学部		3、4年時にゼミ（演習科目）を決定
経済学部		3年前期に指導教員を決定
理学部	物理学科のみ（物理学、情報理学）2年前期終了時に決定	4年前期から特別研究
医学部		生命科学科4年前期から特別研究
歯学部		
薬学部		3年前期分野決定、最終学年に卒業研究を
工学部	学科により2年時にコース決定	3年次に分野、4年次に論文指導教員決定
芸術工学部		3年次に所属研究室、指導教員決定
農学部	2年前期終了時にコース決定	3年次に分野、4年次に論文指導教員決定

7. 参考となる国内外の大学でのGPAの活用例



九州大学

目次

1. GPA制度とは？
2. GPA制度を実施するうえでの留意点
3. 現行のGPA制度の問題・課題
4. 新GPA制度の運用
5. ルーブリックを用いた学習成果の評価法
6. 本学でのGPAの活用例
7. 参考となる国内外の大学での活用例

GPA制度の導入状況

GPA制度の導入は急速に進んでいる。

- 学部での導入 : H21年360大学(49%)
→H23年453大学(61%)
- 大学院での導入 : H21年159大学(27%)
→H23年177大学(29%)
- 国立大学での導入: H21年56大学(68%)
→H23年60大学(73%)

GPA制度の導入状況

日本の大学でGPAを活用する場面として以下のものが挙げられている。

- 奨学金や授業料免除対象者の選定基準として活用している
(366校; 国立46校)
- 学生に対する個別の学習指導に活用している(356校; 国立48校)
- GPAに応じた履修上限単位数の設定を行っている
(154校; 国立27校)
- 大学院入試の選抜基準として活用している(92校; 国立16校)
- 早期卒業や大学院への早期入学の基準として活用している
(88校; 国立23校)

大学における教育内容等の改革状況等について(平成23年度)、文部科学省
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1341433.htm

GPAの活用について

活用の可能性としては下記のもものが挙げられる

・選考基準

- 授業料免除基準、奨学金貸与の資格者基準、交換留学生の選抜基準、就職等の推薦基準、学科・専攻選択の基準、大学院への進学判定基準

・教学上の基準

- 履修上限単位数、成績不振者への対応基準、学年進級基準、授業の履修条件の基準、卒業資格基準、退学勧告基準

・教学上の管理や情報として利用

- 履修状況の把握や助言の参考、履修状況、成績を分析する指標、授業科目間に生じる評価結果の比較検討

『成績評価の厳正化とGPA活用の深化』、半田智久、高等教育情報センター地域科学研究会、2011年

GPAの活用について

<最も重要なポイント>

- GPAを使って履修状況を把握し、履修指導や学習への助言を通して、**学生の学習を支援**すること(履修指導をどのように実質化させていくのか)
- 授業科目間に生じる成績評価結果を比較し、学内の**成績評価の平準化**を促進していくこと

グレード(評価)	評価のレベル	
A : Excellent	基準を大きく超えて優秀である	4
B : Good	基準を超えて優秀である	3
C : Satisfactory	望ましい基準に達している	2
D : Pass	単位を認める最低限の基準には達している	1
F : Fail	基準を大きく下回る	0

日本の事例(北海道大学)

- 秀・優・良・可・不可の5段階
- クラス担任、指導教員等による修学指導に利用: 学生とクラス担任にGPAを通知し、修学指導と学生の履修計画の作成に活用されることを期待
- 授業料免除の選考基準(GPA2以上)
- 新渡戸賞選考基準(1年次の成績優秀者の表彰制度)
- 学科分属、転科・転部、各種奨学金等の選考、留学支援、退学勧告、卒業資格、大学院入学試験等の制度への利用は今後検討

日本の事例(国際教養大学)

- セメスター終了時の累積GPA2以上を要求。下回る場合は特別アドバイジングの対象。
- 特別アドバイジングにおいては、最低月1回の面談を行う。成績が向上すれば、対象から外れる。
- アドバイザーへの報告等を怠った場合、1学期間、学業経過観察期間(academic probation)に入り、保護者へ通告する。成績が向上すれば対象から外れ、特別アドバイジングの対象となる。学業成績の改善が見られない場合、1学期間の休学勧告する。
- 休学勧告が2学期続く場合、退学勧告する。

米国の事例 (University of Michigan)

各学期におけるGPA要求水準 (Satisfactory Academic Progress : 連邦政府からの要請)

- GPA2以上 (これ以上でなければ、連邦政府の奨学金受給認定を得られない)
- これに満たない場合は、学業経過観察期間に入り、学習改善計画を作成し提出
- 学業経過観察期間中にGPA2以上となることと、登録した単位数の67%以上を取得することが学業継続の条件
- 学業成績はAcademic Standards Boardが常時モニターしアドバイザーと連絡を取り合い、学業継続不可能と判断した場合は退学勧告を出す

University of Michigan Newnan LSA Academic Advising Center
<http://www.lsa.umich.edu/advising>

国の事業への申請にあたっての重要な前提要件

平成26年度スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創 成支援」公募要領(【共通観点2】—共通の成果指標と達成目標)より抜粋

(5) 教務システムの国際通用性

① ナンバリング実施状況・割合

外国の大学との連携を容易にするとともに、学生の適切な授業科目選択の一助とする観点から、学修の段階や順序等を表して教育課程の体系性を明示しているか/する予定があるか。

②GPA 導入状況

成績評価について、厳格な成績評価や外国の大学との連携における成績評価の互換性の観点から、全学的にGPA制度を導入しているか。併せて、進級要件や成績低迷者への指導、奨学金支給要件や優秀者表彰など、他の取組と機能的に関連づけて活用しているか。

③ シラバスの英語化の状況・割合

省略

④ 教育プログラムの国際通用性と質保証

省略

国の事業への申請にあたっての重要な前提要件

平成26年度「大学教育再生加速プログラム」公募要領(2)申請要件より抜粋

(2) 申請要件より抜粋

- ii) 全授業科目において授業計画(シラバス)が作成され、かつその内容として科目の到達目標、授業形態、事前・事後学修の内容、成績評価の方法・基準が示されていること。

- v) GPA制度などの客観的な評価基準を導入し、個別の学修指導に活用していること。※短大、高専を除く